

漢字カードを使った熟語教育

丹羽正之

NIWA Masayuki

本稿は、夙川学院短期大学において筆者が担当する科目「漢字のトレーニング」での、漢字カードを使った熟語教育に関する研究である。これまで「漢字のトレーニング」では筆記問題の演習によって漢字能力を高めてきたが、それだけでは学習できる熟語に限られてしまう。そこで、漢字カードを使って一度に多くの熟語を作り出す方法を考案した。漢字カードは黒板に貼り付けることができるマグネット式のカードで、筆者の手作りである。本稿では、漢字カードの作り方、熟語データの管理と問題の作り方、授業の進め方、今後の課題などを述べる。

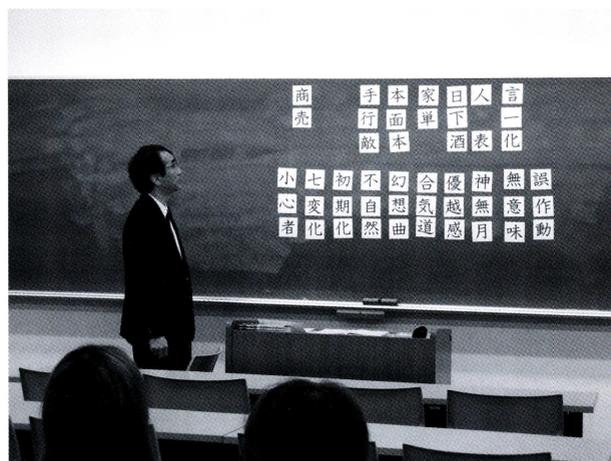
キーワード：漢字、漢字カード、三字熟語、四字熟語、漢字ゲーム

1. はじめに

筆者が担当する科目「漢字のトレーニング」は常用漢字の習得をめざすトレーニング授業である。漢字検定の3級から2級程度を目標として、練習問題で漢字の読み書きを学習している。練習問題の中には四字熟語に関するものもあるが、問題数には限りがあるので、一部の熟語しかカバーできないという欠点がある。もっとたくさんの熟語を一度に学習できる方法はないのか？そこで考えたのが、漢字カードを使った熟語の組立ゲームである。マグネット式の漢字カードを黒板いっぱいランダムに貼る。それを並べ替えて、三字熟語または四字熟語を作るといふ、ゲーム形式の熟語探しである。

マグネット式の漢字カードは、筆者が調べた限りでは市販されていないので、自分で作った。自作には手間と経費がかかるが、一度作ればずっと使えるので無駄にはならない。漢字カードを使わない方法もなくはないが、たとえばコンピュータの画面上で同様のゲームを作ることはできても、教室で全員が一つの小さな画面に集中するのは難しい。あるいは、教師が黒板にチョークで漢字を手書きし、その中から熟語の組み合わせを選び出すという方法も可能だが、漢字を消したり書いたりする時間がかかりすぎて、ゲームにならない

い。結局、教室で二十人ほどの学生全員が見やすく集中して頭を使えるような形にするには、マグネット式の漢字カードしかない判断した。実際にやってみると、この方式は学習効果が高く、学生の反応もよい。なによりもテンポよく楽しく学べるのが長所である。以下に詳述する。



2. 漢字カードの作り方

最初に漢字カードの総枚数を決める必要がある。四字熟語・三字熟語を収集し、それに含まれる単漢字を抽出して整理する。

ひとまず四字熟語を400語（三字熟語を1000

語) ほど収集した。その結果、漢字カードは、571字の漢字、総枚数1000枚と決めた。よく使う漢字は複数枚(2枚~7枚)作るので総枚数は多くなる。

【全漢字カード画数順一覧表】

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1																								
攪	讚	爛	灑	懸	麗	難	題	鬪	頰	騎	懸	臨	療	贅	魘	魘	機	錯	頭	薄	奮	曆	激	縱	薪	整	縉	謀	愼	練	德	機	錯	頭	薄	奮	曆	激	縱	薪	整	縉	謀	愼	練	德

入し、それを10cm×10cmに切る。全部で1000枚に決めたのは、1ロールの制約からである。

漢字は無地のラベルシート(裏紙をはがすと接着剤がついている紙)にプリンターで印刷して、それを切って、マグネットシートに貼る。パソコンのワープロソフト(マイクロソフト社のWORD)に漢字を入力してインクジェットプリンターで印刷した。A4サイズ(210×297ミリ)の用紙には、10cm角の漢字を6字ずつ印刷できる。印刷の書体は「HG教科書体」を用いた。(漢字の授業では、プリント類も、筆記体に近い教科書体で印刷するようにしている。)

マグネットシートの切断、漢字の入力、印刷や切り貼りといった手作業には1週間ほどかかった。最終的に漢字カード1枚のコストは20円ほどである。

なお、マグネットシートはロールを切断すると、巻癖が残っていて、カードが丸く反り返ってしまう。そのため1週間ほどトタン板に貼って巻癖を取り除いた。(写真参照)



571字という漢字数は、常用漢字(約2000字)に比べると意外に少なく思えるが、これは熟語に使われる漢字が限られていることを示している。

漢字カードの素材は、黒板に貼るためにマグネットシートを使う。大きさは、教室の後ろの席からでもよく見えるように、10cm×10cmと決めた。

マグネットシートは、自動車の初心者マークなどにも使われている、磁力のあるゴムシートで表面はビニール加工されている。1m×10mのロールを1本購

3. 熟語データの管理と問題作成

四字熟語・三字熟語は、常識的なものを収集した。ばらばらの漢字を見て熟語を連想するためには、あまり難しい熟語は含まれない。かといって簡単すぎると面白くないので、漢検1級レベルの難解な漢字を含む熟語も少し取り入れた。たとえば「風光明媚(ふうこうめいび)」は、よく耳にする四字熟語だが、「媚」が漢検1級レベルの難解な漢字である。しかし、「媚(こび)を売る」のように、よく使われる漢字でもある。

あるいは「跳梁跋扈(ちょうりょうぼっこ)」「魑魅魍魎(ちみもうりょう)」のように、見るからに難解な漢字は、黒板の漢字カードを見て「いったい、あの字はどう読むのだろうか?」という興味を持たせてくれる。このような難解な漢字(しかし、よく耳にする言葉)を含めることも意味がある。

さらに、ゲーム的な面白さを保つためには簡単に見つかるものも必要なので、故事成語ではない熟語も含めた。「生年月日」「年中無休」のような日常用語である。

また三字熟語は「神無月(かんなづき)」のような古典的な語から、「贈収賄」のような時事用語まで雑多に集めた。

さて、四字熟語400語、三字熟語1000語は、マイクロソフト社のEXCELに入力した。そのデータから、使用されている単漢字の一覧と、使用回数を計算できる。(最もよく使われている漢字は「一」で、のべ40回以上使われている。)

漢字カードは、四字熟語での使用を優先して、四字熟語をカバーするだけの必要最小限の単漢字を揃えた。そしてEXCELのプログラム(自作)で、まず四字熟語をランダムに16語選び、次に三字熟語をランダムに10語選ぶ、という手順をとった。三字熟語は、四字熟語の問題を作った後で、その残りの漢字カードで三字熟語の問題を作ろうという考え方である。したがって、残りのカードで熟語を作れるように、三字熟語は多めに1000語の候補を集めている。

一度出題した熟語は、その出題日を記録し、再度出題することはない。同様に、授業で扱うには不適切なもの(たとえば「売春婦」など)も、出題済みとして授業には出さないようにした。

【↓画数順に整理した漢字カード】



【↓四字熟語の問題 16語 ばらばら状態】



【↓並べ替えて16語の四字熟語を完成する】



4. 授業の進め方

黒板に貼ったばらばらの漢字カードの中から、熟語になる組み合わせを見つける。その試行錯誤が熟語の学習になる。したがって、誰かを指名するのではなく、教室の学生全員に考えさせるのがよい。学生はロクに、ああでもない、こうでもないと考える。じっくりと慎重に考える学生もいれば、次々と漢字を見ては連想する熟語を片端から口に出す学生もいる。その過程に興味があるので自由に考えさせる。

ここで注意すべきは、漢字の組み合わせによっては、正解ではない熟語も作れてしまうことである。学生はそれが正解か否かを判別できないので、教師が判定する必要がある。さらに教師は、正解判定とともに、熟語の読みや意味、故事来歴や豆知識などを説明すると、より学習効果がある。

難しい熟語に対してはヒントを出す。「商売敵(しょうばいがたき)」を解けない場合は『「商売○」という熟語だが、○には何が入るかな?』と問う。ゲーム的な面白さを保ちながら、熟語学習の効果を上げるには教師の手腕が求められる。

5. 今後の課題

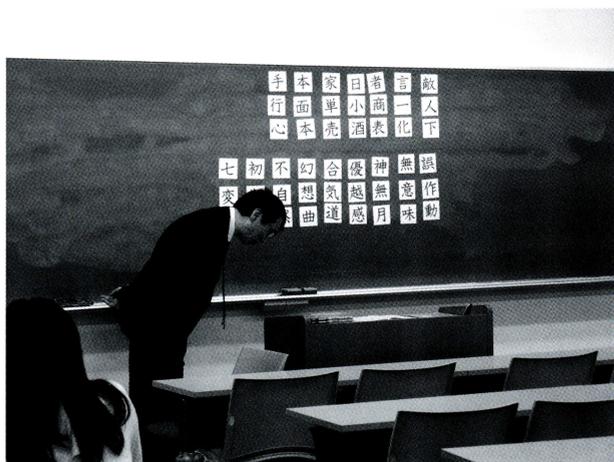
現段階では、日常的で常識的な熟語を多く集めている。しかし漢字の学習という観点からは、もっと難解な、より多くの（たとえば漢検の熟語辞典に載っているような）熟語を追加する必要があるかもしれない。

しかし、難しい熟語ばかりになると、ゲームが成立しなくなるので、そのバランスが難しい。調整方法としては、すべての熟語にレベル値を付けて、どのレベルの熟語を何語出題する、というような出題方法が考えられる。

さらに、並べ替えだけでは、筆記能力がおろそかになるため、筆記テストも併用して、熟語を書かせるとより効果的である。

ほかには、熟語ゲーム以外にも、漢字カードを使った演習が可能である。たとえば「雑魚（ごこ）」のような難読語を黒板に貼って、読ませる。意味を考えさせる。黒板にチョークで手書きすると時間がかかるので、漢字カードを使うとテンポよく、学生を飽きさせることなく、問答を進められるメリットがある。

漢字カードは、工夫次第で、漢字の学習に大いに役立つツールである。



四字熟語（一部）

輕拳妄動	一所懸命	取捨選択	一騎当千
切磋琢磨	優柔不断	支離滅裂	再三再四
手練手管	一進一退	無芸大食	開口一番
馬耳東風	一攫千金	孤軍奮鬪	自縲自縛
意气扬扬	前人未踏	神出鬼没	眉目秀丽
大安吉日	完全無欠	正真正銘	独断専行
器用貧乏	無味乾燥	閑話休題	不眠不休
臥薪嘗胆	感慨無量	空前絶後	士農工商
有象無象	前代未聞	得意満面	聖人君子
一挙一動	優勝劣敗	一蓮托生	多事多難
多情多感	時代錯誤	試行錯誤	内憂外患
朝令暮改	二束三文	美辞麗句	和洋折衷
大器晚成	群雄割拠	一球入魂	突貫工事
手前味噌	順風満帆	慇懃無礼	新陳代謝
花鳥風月	生殺与奪	女人禁制	厚顔無恥
文明開化	難攻不落	千变万化	粉骨碎身
前途多難	他言無用	初志貫徹	古今東西
日進月歩	快刀乱麻	捲土重来	渾然一体
中肉中背	門戸開放	絶体絶命	妖怪変化
風林火山	起死回生	創意工夫	百戦錬磨
風光明媚	自暴自棄	傍若無人	因果応報
叱咤激励	首尾一貫	言語道断	千差万別
猪突猛进	变幻自在	天真爛漫	贅沢三昧
疑心暗鬼	三位一体	理路整然	悪戦苦闘
事实無根	弱肉強食	意味深長	空中楼阁
独立独歩	天下泰平	諸行無常	画竜点睛
豊年満作	純情可憐	豪華絢爛	一石二鳥
右往左往	単純明快	唯一無二	十人十色
茫然自失	頑固一徹	他力本願	意气投合
酒池肉林	百鬼夜行	極悪非道	大胆不敵
未来永劫	極楽浄土	百花繚乱	狂喜乱舞
大義名分	一日千秋	勸善懲惡	無病息災
平身低頭	無我夢中	縦横无尽	一家団欒
吳越同舟	当代随一	青息吐息	新進気鋭
意气消沈	心機一転	一朝一夕	急転直下
一心同体	免許皆伝	森羅万象	跳梁跋扈
一長一短	五臟六腑	二人三脚	無為無策
付和雷同	門外不出	金科玉条	相思相愛
竜頭蛇尾	反面教師	半死半生	文武両道
誇大妄想	一目瞭然	半信半疑	大同小異

三字熟語 (一部)

血統書	溫度計	実物大	紙一重
紙吹雪	小宇宙	望遠鏡	無愛想
太陽系	野良猫	同性愛	自墮落
最右翼	好都合	五月雨	被写体
座椅子	青海苔	要注意	並大抵
洋菓子	三人称	交通費	科学者
一番星	甘納豆	猿芝居	神通力
百分率	老眼鏡	用心棒	黙示録
雪達磨	殺虫剤	地球儀	小細工
二枚目	幹事長	不気味	副作用
浮浪者	防波堤	値千金	張本人
文房具	堪忍袋	光熱費	孤児院
紅一点	大規模	大自然	改訂版
無人島	角質層	甘味料	旅芸人
反作用	夢物語	小説家	及第点
十五夜	無免許	記憶力	上出来
白昼夢	配偶者	源氏名	未成年
奇跡的	出世作	薬剤師	小手先
屋形船	学芸会	展覧会	類人猿
逃避行	自家製	中古車	半魚人
合理化	感情的	代議士	無秩序
新聞紙	下克上	好景気	無計画
水商売	不均衡	従兄弟	凶悪犯
百人力	滑走路	天王山	規則的
一等地	画一の	円舞曲	試運転
遠近法	自転車	建設的	松葉杖
誤動作	潜水艦	政治家	無意識
周期的	青写真	吸血鬼	錬金術
靈安室	犠牲者	首実検	炎天下
雛人形	卒業生	日時計	生放送
別天地	自由形	低次元	道化師
参考書	絞首刑	交差点	蛍光灯
大雑把	講演会	工作員	乱気流
事情通	鎮魂歌	千羽鶴	最高峰
発動機	飛行船	結果論	発情期
広範囲	歌舞伎	家政婦	不自然
藪医者	地団駄	果報者	横隔膜
免罪符	手料理	護身術	青海原
実験台	立候補	夢心地	未完成
手土産	蟻地獄	景勝地	体温計



ピアスーパーバイザーからのコメント

本論文は、独自の手製教具による授業作りの実践方法が詳しく記述されています。ここで用いられている「漢字カード」は既製のものではなく、本学の講義形態と学生の学習目的に合うよう、慎重な考察と研究の上で作られています。またカードにはスムーズな授業進行のための様々な工夫があり、教師と教室内の学生が同時に使うことのできる教具として効果的に活かされている様子が伝わってきました。近年、講義において学生の集中力を長時間持続させることは難しいと言われています。一方的な知識の教授にとどまらず、学生の知的好奇心を喚起し、自発的な授業参加を促すためにはどうすればよいか。教員は常に学生の目線に立つことを忘れずに学習の環境や教具に細やかな配慮を重ね、学習効果を上げるための工夫をしていく必要があることを改めて感じました。

(担当：児童教育学科 林 有紀)